

大 次期学長に水野氏内定

北大院教授から来春就任

八戸学院大学(八戸市)の次期学長に、北海道大学大学院教授の水野眞佐夫氏(64)が内定した。水野氏が14日、取材に答えた。任期は来年4月から3年間。現学長で、同大を運営する学校法人光星学院の理事長でもある法官新一氏(70)は、任期途中の来年3月で学長

を退く。水野氏は北大大学院教育学研究院の健康体育学分野担当。北九州市出身で玉川大卒業後、日本体育大大学院やコペンハーゲン大医学部などで研究を重ね、2006年から現職。八戸学院大では15年度から本年度まで、水野氏が非

常勤講師として健康スポーツ科学の集中講義を開いている。法官氏とは出身大学と恩師が同じ縁があり、法官氏の就任打診を水野氏が受諾。八学大によると、人事は11月下旬に開いた理事会で決まったという。光星学院は昨年、海外事業展開の新会社を設立。社

長に就任した大谷真樹氏が今年3月で学長を退き、本年度から法官氏が理事長と学長を兼任している。法官氏は取材に「学長にふさわしい人材を探していたが、水野氏の理解を得ら

れた」と話した。また水野氏は「国際交流の取り組みは大学としても重要。スポーツや文化にも積極的に取り組む若い力を全面的に育てたい」と思いを語った。

(若松清巳)